

リストラ… 工場閉鎖… そもそも そもそも **なぜ** こんなことに

経営危機、粉飾決算の背景に 「目先の利益」「原発推進」

東芝は、2000年代に入ったころから、事業・部門(製品)ごとに会社を分社化し独立採算制を導入。短期的には利益があがりましたが、総合電機メーカーとして各事業・部門が支えあってきた機能を失い、事業環境や景気の変化に弱い体質になってしまいました。

また、2006年にはアメリカの原発メーカーであるウエスチングハウス社(W・H社)を、当時の「時価」の3倍にあたる6210億円で買収し、周囲を驚かせました。

その後、リーマンショック(2008年)で経営はいっきに悪化し、原発事業も赤字が続く中で、粉飾決算に手を染めていったのです。

青梅市の産業シンボル 誇れる企業の歴史が…

1875年(明治8年)創業の東芝は、長い間「良い製品を早くお客様に届ける」という、お客様第一で、企業の社会的立場をもわきまえた経営を行ってきました。

青梅工場も50年の歴史を持っており、ワープロの「ルポ」シリーズなど、優れた商品を生み出してきました。このような歴史が、あつという間に壊されようとしているのです!



東芝は「お客様を第一」に、雇用を守り、地域経済に貢献する「まっとうな経営」に立ち戻るべきです

不正会計は空前の規模に

粉飾決算は、7年間にわたって3代の社長の指示で行われました。東芝は、昨年9月には2248億円の「不適切会計」があったことを認めましたが、まだ全容は明らかになっていません。

東芝は、前述の原発メーカーW・H社について、大幅な赤字で1600億円もの減損処理を行っていたことを隠していました。しかし東芝は、いまだに原発で儲けて赤字を回収するという姿勢を変えておらず、W・H社に高い資産価値があると評価したままです。不正会計の実態は空前の規模に広がっています。

粉飾決算は犯罪です。このような不正を行ってきた経営陣こそ正されるべきです

従業員や地域経済を犠牲にするリストラや工場閉鎖は許されません!